

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

大きな分量の変化はなく、昨年と同様に時間的余裕はない。

出題の特徴

I・IIがアジア史、III・IVが欧米史という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス

Iの論述問題で、キーワードを用いるイスラーム史が出題された。

IIIでは、欧米史の論述問題として20年ぶりに思想・文化を主題とした出題がみられた。

2015年夏期講習『京大世界史』第4講実践問題3が、I「トルコ系の人々のイスラーム化」にズバリの。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	トルコ系の人々のイスラーム化	9世紀から12世紀に至るトルコ系の人々のイスラーム化の過程について、キーワード「マムルーク」「カラハン朝」を用いて述べる300字論述。最後をどうまとめるかが難しい。	やや難
II	A 記述	粛慎の朝貢	中国王朝の交替を正統化する瑞祥の一つ、粛慎の朝貢をテーマに、古代から17世紀の中国史を中心とした問題。問(4)(イ)「クシャーナ朝」は「1～3世紀に中央アジアから北インドを支配した王朝」がヒント。	標準
	B 記述	中国における「党」	官僚や知識人が結んだグループ「党」をテーマに、古代から現代までの中国史からの問題。	標準
III	論述	イギリス・プロイセンにおける啓蒙思想の影響	イギリス・プロイセンにおける啓蒙思想の受容と、政治・社会に及ぼした影響について述べる300字論述。イギリスでの受容や影響は、教科書にまとまった記述がないため、受験生には厳しい。	難
IV	A 記述	西欧における船の役割	古代・中世ヨーロッパの運輸・軍事で重要な役割を果たした船(櫂船・帆船)を扱った問題。	標準
	B 記述 論述	ヨーロッパ近世・近代のディアスポラ	宗教・政治・経済的理由から故地を出て各地に離散した人々をテーマに、近世・近代の欧米史を扱った問題。	標準
	C 記述 論述	米ソを頂点とする二極構造の国際システム	第二次世界大戦後の米ソを頂点とする二極構造の国際システムをテーマとした問題。全問が戦後史からの出題であること、小論述を含むことなどから、点数の差がつくと思われる。2013年IVCの「第二次世界大戦後の第三世界」と類似した出題。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年、II・IVの記述問題でなかなか手強い問題が増えてきている。しかし、全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けたい。この上で、論述問題の出来・不出来が合否を左右するだけに、普段の学習のなかで、「歴史事象」の因果関係の理解に力点を置いて、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、京都大学の過去問の研究を進めておくことは、有効な学習対策となるだろう。